

# 私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。

コロサイ4:3

## 2014(26)年 週 報

9月21日  
第3聖日  
3370号

「背教と不法の人」  
(IIテサロニ二連続講演第23回)

### 聖言

だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法に人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。テサロニケⅡ2:3

礼拝の恵み<sup>⑬</sup> 第一七章  
第六節 礼拝のための力  
礼拝のための力は神の第三位、聖霊である。  
第二節 聖霊のみわざ  
(八) 奉仕との関係  
霊に導かれた、ほんとうの礼拝は、信仰者を導いて主に  
対して忠誠なあ御霊に導かれ、御霊に力づけられた奉仕を  
なさしめるであろう。使徒行伝はむしろ「聖霊行伝」と表  
現した方がより良いであろう。この書の全体を通じ、信者  
たちに福音を説く力を与え、貴重な魂のゆたかな収獲を信  
者たちに保証するのは聖霊だからである。そこには信者た  
ちは「聖霊と信仰に満ちた」人々と記されている。これら  
のクリスチャンは体験上、「聖霊によって祈る」とか「聖霊  
において生きる」とか「聖霊に導かれる」とかいうことが  
何を意味するかを知っていた。」全く、最も多く礼拝する  
人々は最もよく神に仕える人々である。そして聖霊のみが、  
よくこの両方のための力を供するのである。これらのこと  
が事実だから我ら各自が神の恵みにより「霊とまこととを  
もって礼拝する」人々の仲間に加わりたいものである。  
(A pギブス「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：F A X (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年九月一日午前二〇時 礼拝 山本牧師

「主の日はまだ」 (三テサロニケ連続講演第二二回)

「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法に人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」(テサロニケ二ノ三)

(四) 霊によつても、とは聖霊のことである。「神はこれを、御霊に世つて私たちに啓示去れたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。・・・ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによつて神から私たちに賜わたたものを、私たちが知る為です。」(コリント二ノ一〇)

すなわち、聖霊によつて、御言葉によつて、パウロからの手紙だということによつて、主の日がすでに来た。という者が起こる。そして分別をなくし、慌てふためく人が起こる。その時の見分け方。背教が起こる。不法の人が起こる。そうでなければ主の日は来ない。

とにかくテサロニケ教会が再臨が来た。という人々のために混乱したのである。再臨はクリスチャンの希望である。しかし未信者にとつては逆転の時である。裁きのときである。悪魔が一番嫌っているなぜなら、再臨により永遠に神から遠い存在に置かれるからである。それで、再臨を待ち望む聖徒に再臨を疑わせ、背教と不法の人の現われを期待させようとする。ここに強力な悪の力の働きを知らねばならない。

二〇一四年九月一七日午後七時 祈禱会 山本牧師

「実のないぶどうの木」(エゼキエル連続二二回)

実な信仰を持たず、実を結ばない者はいつまでも主の手から祝福の汁を吸い続けることはできず、投げ捨てられ集められ焼かれる運命。イエス・キリストはあるとき実らないいちじくの譬を話される。(ルカ 13: 6-9)。この譬の要点は実を結ばないキ

リスト者であつても、主は悔い改めて実を結ぶように、じつと忍耐して待つておられる。自分が偽りなき信仰を持ち、イエス・キリストを信頼し、愛し、慕っているかどうか省みてみよう。もしそうでないなら、直ぐこの場で悔い改めよう。

イザヤは良いブドウ畑とイスラエルの民をたとえたが、今はイスラエルの民は野生のぶどうの木であり、実を結ばず薪として焼かれ以外に価値はない。しかし、主はイスラエルの民を救うために、ご自分をぶどうの木となり、民をその枝とした。(誰でも、もし私にとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。あなたがたがわたしにとどまり、私のことばがあなたがたにとまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。)(ヨハ 15: 6, 7)。

(エゼキエル書鷹取裕成著)

ゴスペルコンサート

一〇月一三日(月)祝日 昼一時

一、賛美 和歌山福音教会 村林かなえ牧師  
三、話し 岡山聖成キリスト教会牧師 足達 和章師

「広大な神の愛」(ヨハネ三ノ一六)

一〇月一三日(月)祝日 夕六時

一、賛美 和歌山福音教会 村林かなえ牧師  
二、話し イエス・キリスト聖成伝道教会牧師 山本 稔師

「真の食べ物」(マタイ四ノ四)

聖書の基本原則①

教会に導かれた動機は信者各自様々な理由があります。どの動機が良いかということはありません。なぜなら、神様は創造の前から一人一人を選んでおられたのです。ある人は結婚を通して、

ある人は失恋をとおして、親がクリスチャンで生まれる前からクリスチャンと言う方もおられるでしょう。また教会の路傍伝道を聞いていて強引に誘われたと言う方もおられるでしょう。しかし、動機はともあれクリスチャンとなられたのです。こういうと運動論的に感じるでしょうがそうではありません。その背後には目には見えませんが創造主の愛が現れています。ある少年が親に捨てられホームレスになりました。小説のような話ですが、富豪が少年を家に住ませ、息子にするといったのです。しかし、少年は信じる事ができず、いつでも、家を飛び出せるようにトランクケースを手元に置いていました。これが神の子となった私たちの姿とよく似ています。神様の息を鼻に吹き込まれて生命を与えられた人間が、神様との契約を破り、神様に背を向け天国から逃げてホームレスになりました。そして、永遠の住まいを失い孤独と寂しさと飢えのために滅びる運命の私たちを神様は探し出しご自身のもとに連れ戻してくださいました。しかし、その意味はいわからず、信仰生活をしていてもいつもちぐはぐなことしかできないのです。なぜか、それは、神様の御旨を知らないのです。そして神様の許から逃げ出そうとトランクケースを横に置いているのです。神様がどのような思いをもって私たちを愛しておられるか、私たちはいったいどのようなものか。神様は私たちをどのようなものか、私たちがほしいのか。それらのことが分かったなら信仰生活、教会生活がさらに喜びとなります。

第一課 ディダケー・・神学的、歴史的概念を見直す

御言葉を学ぶ

すべての信者が教えられなければならない、主要な教え

言い伝え(即ち指示、命令、教え)

「終わりに兄弟たちよ。主イエスにあつて、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで、神を喜ばすべきかを私たちが学んだように、また、事実いままあなたがたが歩んでいる

ように、ますますそのように歩んでください。私たちが主イエスによつて、どんな命令をあなたがたに授けたかをあなたがたは知っています。」(テサロニケ「四」一、二)

「そこで、兄弟たち。堅く立つて、私たちのことは、または手紙によつて教えられた言い伝えをまもりなさい。」(テサロニケ「二」一五)「兄弟たちよ。主イエス・キリストの御名によつて命じます。縮りのない歩み方をして私たちから受けた言い伝えに従わなさい。すべての兄弟たちからはなれなさい。どのように私たちを見習うべきかは、あなたがた自身が知っているのです。あなたがたのところで、私たちは縮りのないことはしなかつたし、人のパンをただで食べることはしませんでした。かえつてあなたがたのだれにも負担をかけまいとして、昼も夜も労苦しながら働き続けました。」(テサロニケ「三」一六)

「あのナザレ人イエスはこの聖なる所を壊しモーセが私たちに伝えた慣例を変えてしまふ。」(使徒六「一四」)

「さて、彼らは町々を巡回し手、エルサレムの使徒たちと長老たちが決めた規定を守らせようと人々にそれを伝えた。」(使徒「一六」四)「私がキリストを見習っているように、あなたがたも私をみならしてください。さて、あなたがたは何かにつけて私を覚えまた、私があなたがたに伝えたものを、伝えたとおりに堅く守っているのです。私はあなたがたをほめたいと思います。・私は主から受けたことをあなたがたに伝えたのです。即ち、主キリストは渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こいわれしました。『これはあなたがたのためのわたしのからだです。わたしを覚えてこれを行ないなさい。』(コリント「一」二二、一五「三」)。